



—その昔、主要都市の駅前には『露天商』と呼ばれる謎の人達が店を広げ、指輪などを売っていた

中東系の人が多かった

オレ：1500円しかないや

大ウソ

OK。ワタシたちトモダチ。1500円。ダイヤ♡

本当はいくらなんだ!

コレはいくら?

五千円デス

シルバードレス
ホンモノデス
925デス



—ウエスタンから、パンク、サーファー系まで、さまざまな種類の指輪やネックレスなどが揃えられているのだが!

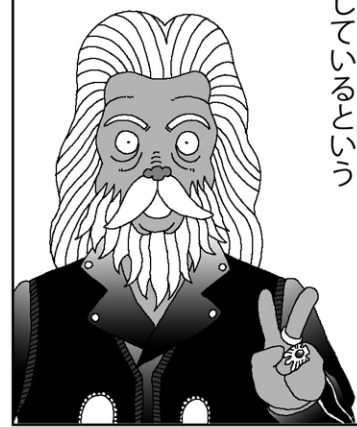
インディアンジュエリーにはいろいろの意味が込められているらしい

例えばココにインディアンの顔が入ったコンチョがあるだろう?

Liberty(リバティ)って文字が入ってるけど『自由』って意味だよ

……それぐらい知ってるよ

まるで、インディアンのような、と、いうより、そのオジイさん自身がインディアンそのもののような怪しい風貌で、近くでインディアンジュエリー店を営んでいるという



—そんなある日、渋谷で不思議なおジイさんに出会った

へえ〜……!

単純

『意味』を持つもののカッコよさを知った瞬間だった

Free(フリー)は誰もが生まれた時から与えられている『自由』。それに対してLiberty(リバティ)は何かを得るために戦って、勝ち取る『自由』。

インディアンはかつて奴隷だった頃に独立のために戦って自由になった。だからここにはリバティの方が使われてるんだ

『自由』にはもう一つFree(フリー)っていう単語があるんだけど、コレにはリバティの方が使われているじやろ?

たしかに……



そこからインディアンジュエリーにハマったのだが……

完成した状態で売られているのは高価で買えず、単体で買ってきては自分で組むことを繰り返した



*徐々にグレードが上がっていった

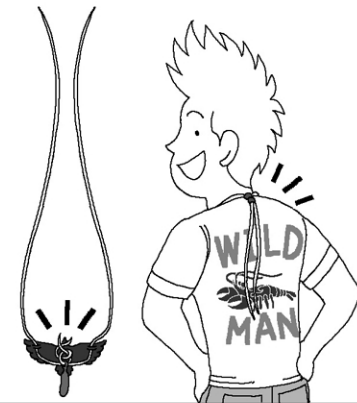
ペンダントトップをビーズや石と一緒に丈夫な鹿革(ディアスキン)の革ひもを通して完成させる



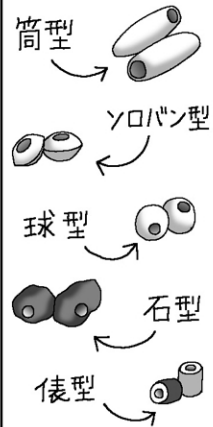
まず赤を3つ、次に青を2つ通し、もう1回赤を通す

最後に2本の革ひもを1つのビーズでまとめるのだが、背中で革ひもが垂れ下がる所がカッコよかった

*1本だけだと垂れ下がる革ひもが短いため、2本使う



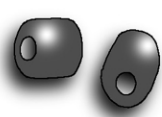
革ひもに通すビーズの種類もさまざま、組み合わせ次第でバリエーションも無限に広がるので、自分だけのオリジナルが作れる



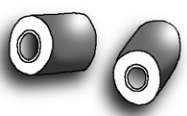
※UFO じゃありません

ただ、パーツの値段もピンキリで、ビーズ1粒にしても高価な物はゼロが一つ違うぐらい差があった

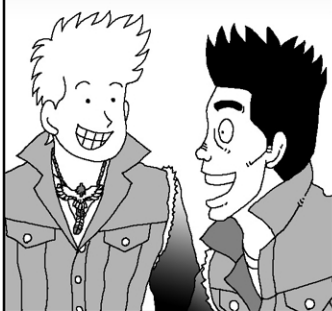
*カラービーズ ¥20~ぐらい



*アンティークビーズ ¥100~ぐらい



それなりの投資と労力を使って組み上げるオリジナルのチョーカーは喜びもひとしおなのだが……



これがイキナリ切れる!



聞くと、革ひもを選ぶ時に1本の中でも太さが違う革ひも(細い部分ができてしまっている)を使ってしまうと、そこから弱くなるし、作る(II切る)際に職人が始点から終点までイッキに切れればいいのだが、途中で止めてしまうと、そこも切れ目の原因になりやすいという

*イッキに切る



*途中で一息ついてしまう



*この「ささくれ」が後にビーズに引っかかり、切れる原因になるのだ!



実体験からの試行錯誤では一番で丈夫なひもは極太の釣り糸で結び目部分を強力な接着剤で固定することだが、この手法がどうしてもインディアン的とは思えず、結局断念した……



無職(ひも)

予備の革ひもを用意し、対策は立てるものの……



ウルセーだ

あれ?また革ひも買うんすか???

やはりまた何の予兆もなくイキナリ切れる!



そして、飛び散ったビーズを拾い集めている、自分の姿の情けなさに気づくのであった……



ジョニー、こっちに2つぐらい飛んできてっぞ

——こうして、もの凄い情熱を注いだインディアンジュエリーではあったのだが、泣く泣く撤退していくことになるのであった……